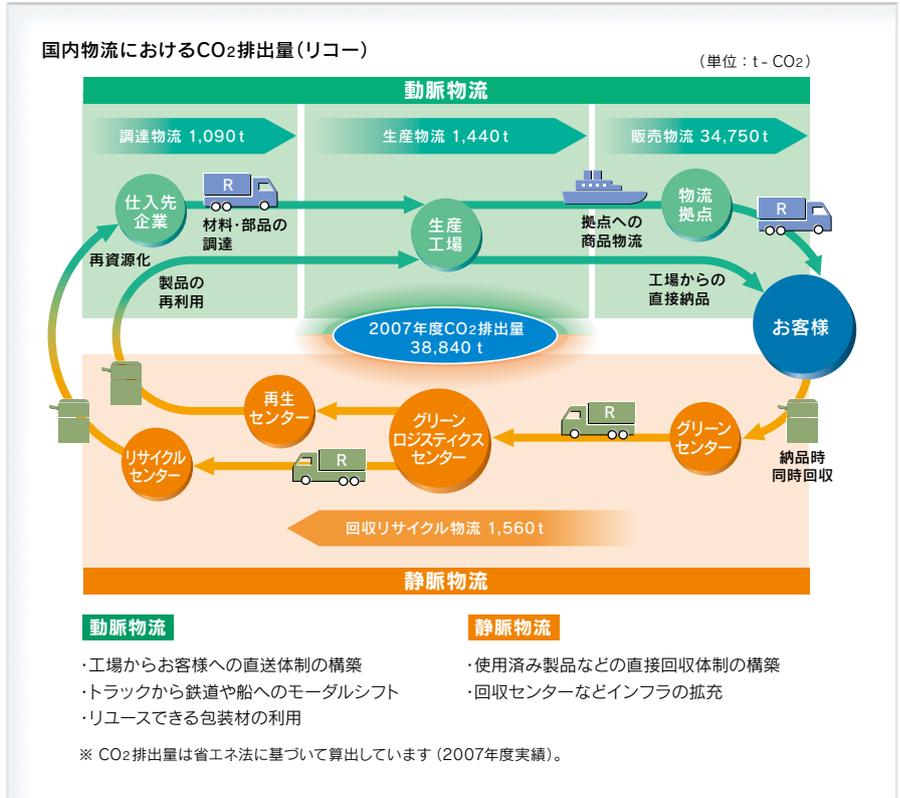


グローバルにSCMの最適化を図り、 物流におけるCO₂とコストの削減に取り組んでいます。

持続可能な社会を実現するためには、物流活動から排出されるCO₂の削減は特に重要な取り組み課題です。企業としてこの課題を解決していくためには、CO₂の削減と同時にコストの削減も進める必要があります。そのためにまず、物流における改善テーマを明確にし、物流コストとCO₂を同時に可視化し改善活動を行っています。また、改善事例はグループ内で迅速に水平展開することで効果の拡大につなげています。リコーグループでは、「モーダルシフト」や「お客様への直送化」「倉庫間物流の効率化」「ミルクランの導入」など、グローバルSCM(サプライチェーン・マネジメント)の最適化を図り環境負荷低減をさらに進めていきます。



物流の環境負荷削減に向けた サプライチェーン全体での取り組み 《リコーグループ/日本》

物流の負荷削減には、荷主であるリコーと物流事業者が一体となった取り組みが重要です。製品の販売・回収物流を担うリコーロジスティクスでは、輸送によるCO₂排出量を可視化する情報システムを構築。これにより、1輸送ごとの発着点間の距離、重量、車種、使用燃料、積載率の情報が細かく把握でき、荷主に対して効果的な負荷削減の提案を行うことが可能になりました。また、調達物流、生産物流、販売物流においてもコストおよびCO₂削減の視点によるSCMを展開しています。倉庫間物流のモーダルシフト、部品のルート回収、包装材見直しによる積載効率の向上などの取り組みも積極的に進めています。

①リコーロジスティクスの輸送におけるCO₂、NO_x、SO_x排出量

年度	CO ₂ (t)	NO _x (t)	SO _x (t)
2005	1,467.7	2.8	0.4
2006	1,368.0	2.6	0.4
2007	1,383.1	2.7	0.4

TOPIC 調達物流の環境負荷削減

ミルクラン(共同巡回集荷)による 部品供給システム

《リコー沼津事業所/日本》

リコー沼津事業所にトナー材料を供給する仕入先企業は、近隣10kmの範囲に複数あり、従来は、各社が個別にトラックを仕立て、1日1~3回のピストン輸送を行っていました。この方法では、車両の延べ走行距離、積載効率などに多くの無駄が発生していました。そこでリコーでは、改善策として2007年10月からミルクラン方式による供給システムの運用を始めました。新システムは、1台のトラックが各社を巡回して材料を集荷するため、環境負荷とコストの両面からの削減が可能です。車両の走行距離の短縮や積載効率の向上により、CO₂排出量は従来の約1/2になり、さらに、トラック台数が減ったことで納品時の混雑が緩和され、ドライバーの待ち時間も短縮できました。今後も対象の仕入先を拡大していきます。

